

魚沼圏域重点取組方針進行管理表

重点課題	地域医療連携ネットワーク
------	--------------

I 目標および実績

目標	数値目標 (ベースライン)	目標(値) 【年度】	実績数値又は目標の進捗状 況(実績)【年度】
1 【医療機関参加率の向上】 圏域の医療機関の参加率について、 病院100%・診療所60%を目指しま す。	・ 参加医療機関 の割合の増加 病院:85.7% 診療所:50.0% (H26.3月末)	【H29】 病院100% 【H29】 診療所60%	【H29】 病院92.3% 【H29】 診療所48.4%
2 【住民参加率向上】 ネットワーク本稼働後、多くの地域住 民の方々にご理解をいただき、魚沼 圏域の住民70%以上の参加を目指し 診療データを登録します。	・ 圏域人口に対す る参加者数の割 合の増加 2.1%(3,691人) (H26.3月末)	【H26】 10,000人 【H27】 20,000人 【H28】 30,000人 【H29】 40,000人 【H30】 50,000人	【H29】 13.5%(21,905人) (H30.4.1現在推計人口 162,303人)

<p>取り組み状況 (平成29年度実 績)</p>	<p>1 医療機関参加率向上のための取組</p> <p>< 医師に対する説明会の実施 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米ねっと事務局は、魚沼基幹病院の医師に対して研修会を実施して、活用方法及びメリットについて説明した。 <p>2 住民参加率向上のための取組</p> <p>< 病院における加入促進キャンペーン等の実施 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米ねっと事務局は、圏域内の7病院に出張して、外来患者への説明及び加入申し込み受付を実施した。 ○ 魚沼基幹病院では、入院説明の際に米ねっとの説明をセットで行うこととし、入院患者の加入促進に取り組んだ。 <p>< 各種イベント参加者等を対象とした加入促進 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米ねっと事務局は、地域で開催された各種イベント(十日町産業フェスタ2017、津南町健康まつりなど)や住民健診(十日町市住民健診)および民生委員等が参加する行政会議(十日町妻有の里地域医療・地域ケアをささえ隊会議、南魚沼市民生委員会議)に出張し、加入申込受付および説明・普及啓発を実施した。 ○ 十日町・健康福祉部は十日町産業フェスタ2017、津南町健康まつりにおいて加入促進チラシを配布し、加入促進の取組を行った。 <p>< 各種広報媒体を活用した加入促進 ></p> <p>【広報誌】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米ねっと事務局および市町医療対策課は、市町広報誌に米ねっとの周知や加入受付に関する記事を掲載(年1回)して加入促進を図った。 <p>【ホームページ、FM広報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 魚沼・南魚沼・十日町の健康福祉(環境)部は、所属ホームページにおいて米ねっとの周知や利用申込書(PDFファイル)の掲載(魚沼健康福祉部)を行って加入促進を図った。 ○ 魚沼の健康福祉部は、FM広報(FMうおぬま)を活用して病院(小出病院)における加入促進キャンペーンの周知を図った。 <p>【普及啓発チラシ等】</p>
-----------------------------------	--

- 魚沼・南魚沼・十日町の健康福祉(環境)部及び市町医療担当課は、窓口で普及啓発チラシを備え付ける等により、来庁者および職員に米ねっとの周知を図り、加入促進を図った。

II 今後に向けた課題・対応

これまでの取り組みに対する評価等について	<p>1 医療機関参加率向上への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医師に対する説明会を実施したが、回数(魚沼基幹病院での1回)、参加者(15名)ともに少なく、医療機関によっては利活用が不十分であった。 ○ 医療機関が新規に参加する際の初期負担が高額であったため、米ねっと事務局では未参加医療機関に対する勧誘活動に積極的に踏み込めなかった。 <p>2 住民参加率向上への取組</p> <p><加入率概要…約5,000人新規加入、加入率10%→13%へ増></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米ねっとの加入者は前年度と比較して約5,000人増加(17,117→22,053)し、圏域の人口に対する加入率も13%を超えたが、目標値(第5次医療計画:加入率70%)には届かない状況である。 <p><加入促進キャンペーン等の効果について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 7～11月の5か月間において、圏域7病院における加入促進キャンペーン(計161日間)や住民健診、行政説明会等に出張して申し込み受付、説明等を行った。 ○ 結果、年間5,000人の新規加入者のうちの半分近く(2,272人)が加入促進キャンペーン等で新規加入した。特に、病院における加入促進キャンペーンや住民健診時を活用した集中的な出張加入受け付けが、効果的であった。 ○ 魚沼基幹病院における入院患者に対する説明・勧誘により、加入者が増加した。 <p><各種広報媒体等の効果について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町広報誌への掲載や、普及啓発チラシ、HPでの掲載など、各種広報媒体を活用した加入促進については、掲載・配布等実施後の加入者増が数字として確認できなかったため、効果は限定的であったと思われる。 <p><医師から患者への説明等について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主治医が診療の際に患者に対して加入を勧めるのが最も効果的との意見が多いが、米ねっと活用のメリットが医師にしっかり伝わっていないこともあり、患者への働きかけを行う医師は一部に留まっている。
----------------------	--

<p>1 今後の目標(第7次新潟県地域保健医療計画)</p> <p>(1) 圏域住民に対する加入促進(圏域人口の30パーセント以上)</p> <p>(2) 医療機関等での利用・活用の促進</p> <p>2 目標に向けた具体的取組</p> <p>(1) 圏域住民に対する加入促進</p> <p><集中加入受け付けの取り組み等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 加入促進キャンペーンや各種イベント等へ出張しての集中加入受け付けが効果的であったことを踏まえ、実施回数の増加や新たな出張先の開拓等を検討する。 ○ 入院説明とセットでの米ねっと説明・勧誘について、各病院でも実施できないか検討する。 <p><行政機関による効果的な普及啓発検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後更に加入率の増加を図るために、職員への加入促進も含め行政機関(県・市町)同士が連携しながら一層の普及啓発を図る。

今後の目標に向けた具体的取組について

- 特に、アレルギー対応や救急現場での米ねっと活用のメリットなどを救急部門を通じて訴えるなど、他部署への働きかけ・連携も含めながら様々な視点での普及啓発を検討する。
- また、広報施策についても、米ねっとが役立った実例を医療機関や救急現場などの現場レベルから住民の声として吸い上げて、HPや広報誌等でアピールするなど、より住民に響く広報施策を検討する。

(2) 医療機関等での利用・活用の促進

<新たに参加する介護事業所における利活用促進>

- 平成31年度に「新うおぬま米ねっと」システムがスタートし、これまでの医療機関・薬局に加え新たに介護分野も参加した医療介護連携ネットワークへとシステムが拡充する予定。
- 介護事業所を対象とした説明会・研修会を開催して活用するメリットをしっかりと伝えていくとともに、より介護事業所が使い易いシステムを目指してシステム改修の検討を進めていく。

<医療機関等における利活用促進>

- 介護事業所同様に医療機関等に対する説明会・研修の更なる充実を図る。特に診療報酬上の加算ポイントや新システムの使い易さ・利便性といった、活用した場合のメリットをわかりやすく説明することで、医療機関での利活用向上を図る。

(3) その他(次期システムも見据えた今後のあり方の検討)

- 平成31年度から新うおぬま米ねっとをスタートさせるために、更新費用の負担など多くの課題解決に時間を費やした。
- 今後は、行政機関も含め参加機関の意思疎通・意見調整を図りながら、現行システム運用・改良だけでなく、次期システムの経費負担や機能・方向性について早めに確立していく。